「絵はがきと切手」（第４学年）

主　　題：友達のことを考えて

内容項目：Ｂ－（９）友情，信頼

ね ら い：友達からの絵はがきが、料金不足だったことを知らせるかどうか悩むひろ子の気持ちを考えることを通して、友達のことを考え、信頼し、助け合おうとする態度を育てる。

**○基本発問　　◎ 中心発問　　□問い返し**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・発問と予想される子どもの反応 | 指導上の留意点・評価の場面 |
| 導  入 | １　自分にとって友達はどんな人か考える。  **○この前みなさんに書いてもらったアンケートの結果を今から見せます。クラスの友達は、どんなことを書いていたと思いますか。**  **事前に取ったアンケートの内容**  １．友達とは自分にとってどんな人ですか。  ２．５時のチャイムが鳴ったのに友達が遊んでいる姿を見たときにどうしますか。  【アンケートの結果を見た後の反応】  (１より)  ・自分と同じ考えが多いな。  (２より)  ・友達を注意すると答えた人が多いな。  ・明日先生に言うと答えた人も多いな。 | **問題意識をもつ**  ・自分が友達だと思っている特定の子を思い浮かべ、教材に近い例を提示したときに自分が取る行動を考えさせることで、本時の道徳的価値に対して問題意識をもって授業に臨めるようにする。 |
| 展  開 | ２　資料を読んで、道徳的価値について考える。  **○正子さんから手紙をもらったとき、ひろ子さんはどんな気持ちになったでしょう。**  【予想される子どもの反応】  ・手紙をくれてうれしいな。  ・正子さんに会いたいな。  ・お礼の手紙を書きたいな。  **○母と兄の意見を聞いて、ひろ子さんはどんなことを考えて迷ってしまったのでしょう。**  【予想される子どもの反応】  ・お礼だけ言うこともできるけど、同じ間違いをしてしまったらかわいそうだな。  ・言ってあげたいけれど、どう伝えればいいのだろう。  ・母も兄も、ひろ子さんのためを思って言ってくれているけれど、どちらがいいのかな。  **○自分がひろ子さんの立場だったらどうしますか。**  【お礼だけ言う】  ・正子さんが嫌な思いをする。  ・きらわれたら嫌だな。  ・せっかく送ってくれたので、言わない。  【料金不足を教える】  ・間違っているときは、教えてあげるべきだ。  ・他の人にも送ってしまうかもしれない。  ・正子さんが後から知ったら嫌な気持ちになる。  ・友達だからこそ間違いを教えてあげるべきだ。 | ・絵はがきをもらったひろ子の喜びに共感させ、正子とひろ子が離れていても仲良しの友達であることを押さえる。  ・母と兄と考えの違いを明確にし、ひろ子の気持ちの迷いを捉えさせる。  **自分との関わり**  ・ひろ子の迷いを理解した上で、自分だったらどうするか、自分の体験やそれに伴う感じ方や考え方を基に自分なりの考えをもてるようにする。 |
|  | 【どうしたら良いか分からない】  　・お礼も言いながら、料金のことも伝える。  　・どうしたら良いのかな？  　・どっちも大切だと思う。  **◎どうしてひろ子は、正子さんに教えることができたのでしょうか。**  【料金不足を伝えても、正子さんは怒らないだろうという反応に対して】  **□なぜ、怒らないと分かるの？**  ・言いにくいことだけど「自分のためを思って言ってくれたんだ」と思ってくれるだろう。  **□自分のためを思ってくれたと、なぜ言えるの？**  ・こういうことを言っても、意地悪で言っている訳ではないと分かってくれると信じているから。  **□なぜ、「きっとわかってくれると」と思えたの？**  ・本当の友達だから。  ３　自分と友達との関わりについて、生活を振り返る。  **○今日の学習を通して、本当の友達になるためには、どんなことが大切だと思ったか、感想を書きましょう。**  【予想される子どもの反応】  ・よいことも悪いことも言い合えること  ・自分が間違えたことをして教えてもらったら、直そうとすること | ・「心コーン」を使って、自分が「お礼だけ言う」（桃色）「料金不足を教える」（青色）「どうしたらいいかわからない」（重ねる）のどの意見なのかを示しながら、話すようにする。  **多面的・多角的**  ・グループで考えを伝え合い、話合いをさせることで、母と兄のそれぞれの立場に立って多面的・多角的に考え、友達としてどうすることが一番良いのか、自分の考えを深めることができるようにする。  ●評価の場面  友達の正子から料金不足の定形外郵便物の手紙をもらい、葛藤するひろ子の気持ちについて、自分との関わりで考えたことを基に、「心コーン」を操作しながら話合いをすることで、多様な考えがあることに気付けるようにする。  正子に対してどのように対応することが、友達としてのよい関わり方なのか、他の人の多様な考えを交え、自分との関わりで考えながら、よりよい友達との関係について考えることができているか見取る。  ・ひろ子と正子の関わり方について考えることを通して、自己の生き方について考えを深められるようにする。  **自己の生き方**  ・友達として、相手のために言いにくいことでも言い合えたり、お互いに高め合えたりする関わり方もあることに気付かせる。  ・導入で考えた「友達」と、比べさせることで、考えの深まりや考え方の変容を自覚させる。 |
| 終  末 | ４　教師の説話を聞く。 | ・本時の教材に近い教師の経験を話す。 |